

業務中事故報告書

1. 発注（報告）機関 名古屋支社 ■■■■■ 保全・サービスセンター (立会者)

2. 業務名 2023年度 中央自動車道 ■■■■■ 管内維持修繕業務

3. 発生日時 令和5年12月14日(木) 14時02分ごろ (天候 晴)

4. 発生場所 東海環状自動車道 外廻り 五斗蒔 SIC 取付道路付近
(地先, IC間, 測点など) _____

5. 業務の概要
 (1)グループ会社名 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋㈱
■■■■■ 事業所
 (2)発注区分 (指名) 本社, 支社, 保全・サービスセンター
 (3)工期 2023年 4月 1日から2024年 4月30日まで
 (4)請負金額 — 円(税込) (5) 述べ労働時間 — 時間

6. 事故の状況
路面清掃A作業において、外廻り五斗蒔SICの取付道路の路面清掃完了後、一般道で反転する際に反転路にあるモニュメント（縁石）に接触したものを。

7.

公衆, 作業員 などの区別	(ふりがな) 氏 名	性別 年齢	職種 経歴	当現場 の経歴	被災者の住所	負傷 程度
					所属業者名(本社所在地) 元請との関係	
作業員 (運転手)		■■■■■	14年	14年		
			5カ月	5ヶ月	■■■■■ 事業所・技能職	
作業員 (助手)		■■■■■	14年	14年		
			5ヶ月	5ヶ月	■■■■■ 事業所・技能職	

(物損状況)
スーパー車両右側後方のタイヤカバー脱落、タイヤハウス変形。(写真-1) 参照
現地モニュメント（縁石）については現地確認し、損傷はなし(写真-2) 参照

8. 事故に対する所見（原因考察、警察・労基署の所見など）
当該作業員はスーパー車の運転業務経験が2回目であり、左ハンドル車に不慣れであったため、内輪差を見誤り、縁石に接触したものを。
反転路への進入速度が速く、助手が確認を行う前に接触したものを。

9. 事故発生後の処置
現場責任者よりメンテ職員へ連絡。メンテ職員より■■■■■ 保全及びメンテ本社へ連絡。メンテ職員及び当該作業員にて現地の損傷の有無（損傷無し）を確認。夕方、緊急の安全大会を実施。

10. 取材及び報道 なし

(本業務の本件までの事故状況) 0件, うち死亡 0件, 重軽傷 0件, 物損その他 0件

【発生場所】



【車両損傷状況】 写真-1



【モニュメント（縁石）損傷なし】 写真-2



1.1. 事故原因の詳細（後日提出）

発生原因	人的要素		物的要素		管理的要素	
	・路面清掃車の運転業務経験が2回目であり、左ハンドル車両に不慣れであった。		・路面清掃車が車両更新に伴い、旧車両より全長が約1.5m長い車両となっていた。		・本線走行に慣れさせた後の一般道反転を伴う業務に従事させていたが、運転業務経験が不十分であった。	
	原因評価 (◎ ○ △)	◎	原因評価 (◎ ○ △)	○	原因評価 (◎ ○ △)	○

※ 原因評価：事故との関連性 重大=◎ 中程度=○ 軽度=△



【人的要素に基づくヒューマンエラー要因】

※ 事故原因と考えられる人的要素に○印をつける。（複数可）

H 1	無知 <u>未熟練</u> <u>経験不足</u> 教育不足
H 2	危険軽視 慣れ 悪習慣 集団欠陥
H 3	近道本能 省略本能 能率本能
H 4	場面行動本能（1点に集中して周囲の状況が見えなかった）
H 5	緊急時のあわて パニック状態
H 6	外的要因錯覚（見間違い、聞き違い等） 内的要因錯覚（思い込み等）
H 7	中高年齢者の機能低下
H 8	疾病 疲労 体質 急性中毒等
H 9	単調反復動作による意識レベルの低下

事故対策再発防止対策	人的要素	物的要素	管理的要素
	・業務の都合上、経験の少ない作業員が運転することもあるため、当該箇所の反転においては、助手が降車し、車外にて確認・誘導を実施する。	・現在使用している反転路が新しい車両に適しているか、確認・精査を行う。	・安全大会等で実車を用いて運転（走行・後退・転回等）の実技訓練等を行い、車両特性の知識習得や運転技術の向上を図る。